



外国語活動＝ゲーム?!

多くの子ども達は、外国語活動を楽しみにしているのではないのでしょうか。子ども達が楽しめるように、これまでの有森は、「どんなゲームをしようかな。」と考えることが授業を考える中心になっていました。要するに、「外国語活動＝ゲーム」と思っていたのです。

そうすると、こんなことに陥りました。

- ①予定していたゲームをこなしていくことに支配される。
- ②ある程度の表現が言えないとゲームが行えず、楽しめないと考え、リピート練習をして覚えさせようとする。
- ③子ども達も、外国語活動＝ゲームと勘違いし、「今日は何のゲームをするん?」「どうやったら、勝ちなん?」「今日は、遊ばんのん?」と、言葉を学習するのではなく、ゲームで勝つことのみに関心をもつ。

確かに子ども達は、ゲームを通していきいきと活動しています。一見アクティブに見えるのですが、当の授業のねらいに対してアクティブであったかというところではなかった気がします。

昨年度、外国語活動サークルで「粕谷恭子先生（学芸大学）・岩橋加代子先生（ぼ〜ぐなん）」を講師としてお招きし、“授業で大切にしていけること”を教わりました。

- ㊦ことばを大切に活動した活動を心がける。（勝敗が結果になるゲームはしない。活動名に「ゲーム」という表記もあるが、日常会話を基にしたコミュニケーション活動になるようにする。）
- ㊧「ことばをたくさん聞かせるための工夫」をする。
※繰り返し練習にもひと工夫を。
- ㊨「ことば」を聞いて、知っていることばから何が言われているかを類推する活動を取り入れる。
- ㊩特別な表現より、日常使われる表現を指導する。（一般的な挨拶の仕方など）
- ㊪正しい文を聞かせる。（中学校への接続で困らないように）
- ㊫英語らしい音の流れを聞かせる。（リズムにことばを乗せたチャンツで、音の流れを意識する。）

このような授業を作っていく中で、子ども達が、「聞きたい」「話したい」「伝えたい」という思いを持ち、コミュニケーション能力の素地が育っていくものと思いました。

では、具体的には、どのように授業を作っていけばよいのでしょうか？取り組みやすいものから少しずつやってみましょう。例えば、①「ことばをたくさん聞かせるための工夫」に関しては、下記のような活動を紹介されました。

(1)

例) Sit down Game 好きな果物を言う表現の場合(好きな果物ゲーム)
T: Who likes oranges? (児童が挙手)
T: You like oranges. (挙手した児童に対して)
T: I like oranges, too. OK! Sit down. (挙手した児童が着席)

この活動では、「like(likes)」「orange(orange)」の言葉を最低 3 回聞くことになります。A L T が一緒にいれば、学級を 2 グループに分けて行くと時間の短縮にもなります。

(2)

例) 意識して聞かせる方法

(歌を聞かせたり映像を見せたり、指導者が話すのを聞いたりしながら)

T: 歌(映像)の中に、「色」が出てくるよ。どんな色が出てくるかよく聞いてみて。

T: 歌(映像)の中に、「〇〇」が出てくるよ。

T: 歌(映像)の中で、「What's this?」が何回言われているかな？数えながら聞いてみよう。

この活動では、子ども達は、指導者が聞かせたい表現に集中して聞きます。

🌈 最先端の取組をしているのだとの誇りをもって！

10年先を見据えた施策展開(概要)

施策1 育成すべき人材像の具体化

- ◆ これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育活動を実践するための評価指標を開発し、教職員や児童生徒の間で目標の共有を図る

施策2 課題発見・解決学習の推進

- ◆ コンピテンシーの育成に効果の高い「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間をはじめ、各教科等の学習において、「課題発見・解決学習」を推進する

施策3 異文化間協働活動の推進

- ◆ これからの社会で活躍するためのベースとなるグローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて、小学校段階からの系統的な「異文化間協働活動」を推進する

施策4 厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備

- ◆ 社会が求めるニーズに応じた厚みのある多様な人材層の形成に向けて、県立学校の体制整備を早急に進める

施策5 教員の採用育成方針の整備

- ◆ コンピテンシーの育成を目指した教育の実践に向けて、教員の採用育成方針の抜本的な見直しを行う

施策6 県全体の機運醸成

- ◆ 県民総ぐるみで児童生徒や学校の新たな挑戦を応援していくため、県全体の機運醸成を図る

< 主な取組例 >

これは、広島県が示している広島版「学びの変革」アクションプランの概要版の2枚目に示してあるものです。外国語活動では、学習を通して、外国の様々な文化や習慣などに触れます。まさに、わたしたちが施策3「異文化間協働活動の推進」に重点的に取り組み、充実させているのです！
自信と誇りをもって外国語活動を楽しんでいきましょう！

(児童生徒の「課題発見・解決学習」の成果発表、高校生グローバルサミットなど)
○学校の取組を支援する基

詳しくは、⇒ <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/150031.pdf>